

---

---

## 2001年度「東洋経済賞」「高橋亀吉記念賞」「アントレプレナー賞」決定

---

「東洋経済賞」「パースン・オブ・ザ・イヤー」に**武田薬品工業社長の武田國男氏**、

「東洋経済賞」「カンパニー・オブ・ザ・イヤー」に**ヤマト運輸**

「高橋亀吉記念賞」は**北島啓嗣氏**ほか

「アントレプレナー賞」は**金丸恭文フューチャーシステムコンサルティング社長**

---

---

□「東洋経済賞」の表彰式は、**12月6日(木)午後5時30分より、東京會館**(東京都千代田区)にて行います。表彰式当日の取材などのお申し込みは総務部・川添まで電話(03-3246-5404)またはメール(tk@toyokeizai.co.jp)でお寄せ下さい。ご招待状をお送りいたします。

(株)東洋経済新報社(本社 東京都中央区、社長 浅野純次)はこのたび、2001年度の「東洋経済賞」「高橋亀吉記念賞」「アントレプレナー賞」の各賞を決定しましたのでお知らせいたします。

### ■東洋経済賞

「東洋経済賞」は、21世紀に向けて新しい日本の創造に寄与した「人」と「企業」を表彰しようという趣旨で、1990年に創設され、今年で12回目を迎えました。“パースン・オブ・ザ・イヤー”と“カンパニー・オブ・ザ・イヤー”で構成されています。

### ◆パースン・オブ・ザ・イヤー

その年の活躍がとくに顕著だった、いわば“日本の顔”を、政治、経済、言論など広範な分野から原則1名の方を選定させていただいております。

### 2001年度(第12回)の受賞者

#### 武田 國男 氏 (武田薬品工業株式会社 代表取締役社長)

武田國男氏は、長兄の急逝により1993年、武田薬品工業の社長を引き受けると、迷うことなく会社の改革に着手しました。年功序列を完全に排した新人事制度の導入、コア事業である医薬品部門への経営資源集中、不採算部門の再編、カンパニー制導入、大量定年時の採用抑制による人員のスリム化などの体質改善に成果を収めました。

これにより、武田薬品工業の業績は着実に拡大し、同業他社が売上高の伸び悩みと利益の減少に苦しみ中、2003年3月期には連結ベースの売上高で製薬業界初の1兆円を見込むなど、連続した増収増益基調を維持するとともに、国際的製薬メーカーとしての地位を確かなものにつつあります。こうした思い切った改革の実行とその成功は、企業経営者として賞賛に値するものとして本年度の「パースン・オブ・ザ・イヤー」に推挙されました。

選考委員 島田 晴雄 氏 (慶應義塾大学経済学部教授)

ジョージ フィールズ 氏 (フィールズ・アソシエイツ(株)代表取締役)

水口 弘一 氏 (株野村総合研究所顧問、経済同友会副代表幹事)

[過去の受賞者](敬称略、職名は受賞当時)

第1回(1990年度) 鈴木 永二 (日本経営者団体連盟会長、三菱化成(株)相談役)

- 第2回（1991年度） 本田宗一郎 （本田技研工業(株)創業者、故人）=特別賞  
 第3回（1992年度） 亀井 正夫 （政治改革推進協議会会長、住友電気工業(株)相談役）  
 第4回（1993年度） 川淵 三郎 （日本プロサッカーリーグ・チェアマン）  
 同 大来佐武郎 （元外務大臣、故人）=特別賞  
 第5回（1994年度） 鈴木 敏文 （(株)イトーヨーカ堂社長、セブン-イレブン・ジャパン(株)会長）  
 第6回（1995年度） 該当者なし  
 第7回（1996年度） 稲盛 和夫 （京セラ(株)取締役名誉会長、第二電電(株)代表取締役会長）  
 第8回（1997年度） 中坊 公平 （(株)住宅金融債権管理機構代表取締役社長）  
 第9回（1998年度） 出井 伸之 （ソニー(株)代表取締役社長）  
 第10回（1999年度） 宮内 義彦 （オリックス(株)代表取締役社長）  
 同 豊田章一郎 （トヨタ自動車(株)取締役名誉会長）=特別賞  
 第11回（2000年度） 加藤 寛 （千葉商科大学学長、前政府税制調査会会長）

### ◆カンパニー・オブ・ザ・イヤー

わが国産業経済の発展に大いに寄与し、とくに本年の活躍著しい企業を原則1社選定するものです。

#### 2001年度(第12回)の受賞企業

##### ヤマト運輸 株式会社（代表取締役社長 有富慶二氏）

ヤマト運輸は、小倉昌男元社長のもとで郵便局に独占されていた小口貨物の宅配サービスを開発しました。1976年にスタートしたこの「宅急便」事業は、当初、監督官庁からさまざまな圧力を受けましたが、小倉氏の獅子奮迅の活躍もあり、「宅急便」は宅配サービスの代名詞になるほどの大きなビジネスへと成長を遂げました。ヤマト運輸は、その後さらに「ゴルフ宅急便」、代金回収を請け負う「コレクトサービス」、全国一波無線による運行情報システム、本の宅配「ブックサービス」、「クール宅急便」、「夜間お届けサービス」、「空港宅急便」、「クロネコメール便」など多くのサービスを開発、つねに物流における技術革新の先頭に立っています。ヤマト運輸の功績として忘れてならないのは、バブル崩壊後も雇用を積極的に拡大してきたことです。1991年には単体ベースで4万名弱だった従業員数は、2001年には9万1000名に増加しています。マクロ的に雇用縮小が続くこの10年間に、5万人強もの新たな雇用を創出したことは、企業の大きな社会的使命を果たすものとして賞賛に値します。

これらの点が高く評価され、本年度「カンパニー・オブ・ザ・イヤー」に推挙されました。

#### [過去の受賞会社]

- 第1回（1990年度） ソニー株式会社  
 第2回（1991年度） 株式会社オリエンタルランド  
 第3回（1992年度） 該当企業なし  
 第4回（1993年度） 〃  
 第5回（1994年度） アイワ株式会社 シャープ株式会社  
 第6回（1995年度） ソフトバンク株式会社  
 第7回（1996年度） 花王株式会社  
 第8回（1997年度） アサヒビール株式会社  
 第9回（1998年度） キヤノン株式会社 日本電産株式会社  
 第10回（1999年度） セコム株式会社  
 第11回（2000年度） 株式会社NTTドコモ  
 株式会社ファーストリテイリング

本年度の「東洋経済賞」の受賞者・受賞会社については、『週刊東洋経済』11月17日号（創刊記念号、11月12日発売）誌上においても発表いたします。

## ■高橋亀吉記念賞

わが国経済評論の先達であり、実践派エコノミストとして知られる高橋亀吉氏（元『東洋経済新報』編集長）の業績を偲んで、東洋経済新報社は高橋家の全面的協力のもとに、1984年「高橋亀吉賞」を創設しました。当初、期間10年の予定で始められた同賞は、弊社創業100周年記念の意味合いも込めて、1994年から新たに「高橋亀吉記念賞」として再発足しました。この間、同賞は一貫して「経済論壇に新風を吹き込む」という目的を果たしつつ、今年で通算18回目を迎えました。

本年度は「消費はどうすれば活性化するか」をテーマに募集を行いました。消費の低迷こそ日本経済不振の根底にあると言われる。しかし、現実にはユニクロ現象が起きる一方、高級ブランド品ブームや、新しいコンセプトで売り上げを伸ばしている商品も多々見られます。消費不振を、所得の伸び悩みや将来不安（老後不安、増税・年金不安等）といった経済論的な説明で終わらせず、消費者の価値観やライフスタイルの変化という観点からとらえれば、新しいニーズに応える企業努力のあり方についてもまだまだ論ずべきことが残っているのではないのでしょうか。主婦や働く女性を含む消費者の立場から、改めて日常生活を見つめ直し「なぜ消費をしないのか」「どうすれば活性化するのか」を経験的、具体的に分析・提起してもらいました。

応募数は合計123件で、厳正な選考の結果、優秀作1点、佳作3点の4論文が入選となりました。賞金は、最優秀賞作100万円、優秀作50万円、佳作10万円となっています。

### 2001年度(第18回)の受賞者(テーマ「消費はどうすれば活性化するか」)

最優秀作	該当なし
優秀作	北島 啓嗣 氏(中央大学総合政策研究科博士前期課程在学) 「住宅資産と個人消費 - 住宅ローンの『レバレッジ効果』軽減を目指して」
佳作	中澤 浩三 氏(広島総合銀行総合企画部副調査役) 「知恵の時代にふさわしいマーケティング技術の技術革新を」
同	瀧本 泰行 氏(株式会社 エアーリンク代表取締役会長) 「モノの経済からコトの経済へ、可処分時間で消費の回復を！」
同	豊田 尚吾 氏(大阪ガスエネルギー文化研究所研究員) 「消費の活性化とは『消費の質』を高めること」

選考委員 清家 篤 氏(慶應義塾大学教授)  
原田 和明 氏(三和総合研究所特別顧問)  
常盤 文克 氏(花王㈱特別顧問)

過去の最優秀作および優秀作受賞者(敬称略、直近5年)

第13回 宮副 謙司(優秀作) 池田 信夫(優秀作)  
第14回 池本 美香(優秀作) 福留 恵子(優秀作)  
第15回 豊田 尚吾(優秀作) 辻田 昌弘(優秀作)  
第16回 田中のぞみ(優秀作) 玉田 洋(優秀作)  
第17回 加藤 敏春(最優秀作) 河口 洋行(優秀作)

優秀作は『週刊東洋経済』11月17日号(11月12日発売)に全文を掲載します。

## ■アントレプレナー賞

「アントレプレナー賞」は、小社が発行する『ベンチャークラブ』が1997年に市販化されたのを記念し同年に新設されたもので、創造的な新事業に果敢に挑戦し、産業・企業活動において新局面を切り開いたベンチャー企業の経営者に対して授与されます。

### 2001年度(第5回)の受賞者

#### 金丸 恭文 氏 (フューチャーシステムコンサルティング株式会社社長)

フューチャーシステムコンサルティングは、1989年ベルリンの壁崩壊を見て「世界が変わる」と実感した金丸恭文氏が創業した会社です。起業のコンセプトを一言で言えば、メーカーに依存しないオープン系情報システムを構築することです。創業10年目の99年には店頭公開を実現し、創業以来連続増収増益を続けています。今期(01年12月期)には連結売上高90億円、連結純益9億円を達成する勢いにあります。

金丸氏はセブン-イレブン向けの店舗用コンピュータを開発した人物として知られています。「中立・独立の立場でそれぞれの分野の第一位の技術を組み合わせ、お客様のニーズに最適なシステム構築を行う。そしてビジネス全体の成功を導けば“金丸の知恵”がおカネになるはず」と話しています。

選考委員会では、金丸氏の技術力と経営力を高く評価し、満場一致で本年度「アントレプレナー賞」に推挙されました。

選考委員 清成 忠男 氏 (法政大学総長)  
澤田 秀雄 氏 (株エイチ・アイ・エス代表取締役社長)  
松木 伸男 氏 (シュローダー・ベンチャーズ(株)代表取締役)

#### [過去の受賞者]

第1回(1997年度) アライドテレシス株式会社 大嶋章禎会長 高木弘幸社長  
第2回(1998年度) ブックオフコーポレーション株式会社 坂本 孝社長  
第3回(1999年度) 軽貨急配株式会社 西原克敏社長  
第4回(2000年度) 松井証券株式会社 松井道夫社長

上記各賞に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

東洋経済新報社 第一編集局：福永(東洋経済賞) 03-3246-5501  
第一編集局：鹿島(高橋亀吉記念賞) 03-3246-5505  
第一編集局：田北(アントレプレナー賞) 03-3246-5512  
総務局：川添(取材申し込みなど) 03-3246-5404  
FAX03-3279-0332  
e-mail : tk@toyokeizai.co.jp

以 上